

2019年度事業計画の件

摂南大学:2件

1) 農学部開設関係事業 [学長室、入試部]

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

1. 農学部開設事業 [学長室企画課]

2015年に創立40周年を迎えた本学は、さらなる改革として創立50周年を見据えた成長戦略を策定した。現在は、学園長期ビジョン「J-Vision22」達成の最終フェーズである第Ⅲ期中期目標・計画(2018年度～2022年度)に基づき、実現に向けて取り組んでいる。

ビジョン実現のための目標の1つ「多様な側面から課題解決に取り組む総合大学への進化」および建学の精神「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術を持ち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」に則り、学生の知的探究心を満たし、かつ世界や地域社会に新しく噴出する課題や時代のニーズに対応した農学部を2020年度に開設する。

2. 農学部学生募集広報事業 [入試部入試課]

農学部開設に向け、新たな受験市場にアプローチすることになる。この市場に属する高校生の視野にはもともと本学は入っておらず、認知度ゼロ状態から認知度立ち上げ・上昇、教育内容説明、入試出願促進に向けた広報を体系立てて積み上げていく必要がある。募集活動の柱は対面広報と非対面広報で、双方の連携、相乗効果、タイミングの良し悪しが成否を分けるが、認知度ゼロからのアプローチは非対面広報が重要な鍵となる。

《実施計画》

1. 農学部開設事業 [学長室企画課]

- (1) 農学部設置認可申請の2019年8月末認可。
- (2) 管理栄養士養成施設指定申請に係る実地検査を2020年2月までに受審、2020年3月認可。
- (3) 農場実習体制や備品の整備など教育研究環境・運営体制の整備。
- (4) 農学部開設記念シンポジウムの開催。

2. 農学部学生募集広報事業 [入試部入試課]

■ マス広報の活用

認知度を高めるにはマス広報が有効である。セオリーどおりの交通広告、ネット広告、進学情報サイト・雑誌等のほか、認知度、話題性、注目度を一気に高めるため、第三者の立場から伝えたい情報を戦略的に発信するパブリックリレーションを活用し認知度向上を図るとともに広告価値を高めた広報を展開する。

■ ターゲティング広報の活用

教育内容説明や入試出願促進には、農学、栄養、社会科学を志望する受験生に魅力的なまなび情報を直接届ける広報が有効であるため、リーフレットDMを企画する。

2020年4月開設に向けて2018年9月～2020年3月までの1年6カ月にわたり非対面広報活動を展開する。

この1年6カ月をⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期に分け、「Ⅰ期は認知期」、「Ⅱ期は受験予定大学への組み込み期」、「Ⅲ期は入試出願促進期」と位置づけ、目的に応じた広報媒体を活用する。

- Ⅰ期 交通広告(主要駅、電車内)、ネット・SNS広告、Web特設サイト、進学サイト・雑誌、DM(農学、栄養、社会科学系志望者のうちターゲットとする対象者に送付)

- Ⅱ期 パブリックリレーション、交通広告、ネット・SNS広告、DM、進学サイト・雑誌

- Ⅲ期 入試告知DM、交通広告

このほか、広報室の支援を仰ぎ、交通、新聞、パブリシティ等で広告強化する。

【具体的指標・効果(成果検証)】

1. 農学部開設事業 [学長室企画課]

- (1) 文部科学省への農学部設置認可申請について、2019年8月末の認可を得る。
- (2) 厚生労働省への管理栄養士養成施設指定申請について、2020年3月の認可を得る。
- (3) 農学部開設までに教具・校具・備品を整備し、教育研究環境・農学部運営体制を整える。
- (4) 農学部開設記念シンポジウムの開催を遂行する。

2. 農学部学生募集広報事業 [入試部入試課]

ランキングが直上で、学科構成と入学定員が近い大学をベンチマークとする。

- (1) 開設前年度大手模試での受験希望者数が当該大学を上回ること。
- (2) 開設初年度入試の実志願者数が当該大学を上回ること。

(3) 開設初年度一般入試の実態偏差値が当該大学を上回ること。

2) 教育環境整備事業(寝屋川キャンパス) [教務部、理工学部、学長室]

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

1. 教室整備事業 [教務部教務課、学長室]

授業で使用している教室の固定式机・椅子は約30年使用しており経年劣化し破損の頻度も高いが、修理用部品が既に廃番となっていることから後継品を修理に使用することになるため景観が損なわれる。また最新の机・椅子は疲れにくく講義に集中できる設計となっているため教育環境設備の向上を図ることができる環境を整備する。なお、机・椅子はアンカーで固定しているため撤去する際に破損することから床のPタイルの貼り替えを同時に行う。

2. 8号館整備事業 [理工学部、学長室]

寝屋川キャンパス8号館は耐震補強の改修工事により耐用年数が延び50年以上使用することとなった。本学が認証を取得しているISO14001の考えに沿った省エネルギー・省資源化の視点から設備の改修を行う。

■ 給水管の改修

今までのように浄水器で水垢や赤錆を取り除く必要が無くなるため、水道水を使用する機器や装置の故障が減り、メンテナンスの手間が削減することが期待される。

3. 寝屋川キャンパス東側土地取得地整備事業 [学長室]

寝屋川キャンパスは教育研究、産学官連携、社会貢献等様々な活動を展開する摂南大学の中核キャンパスである。地域に愛され信頼される大学を築くために、このキャンパスを学生・教職員だけでなく、地域の人々にも潤いと安らぎを与える空間として整備する。学部・学科の新設・再編をはじめ、教育プログラムの充実や課外活動の活性化を目的とした整備内容とする。

《実施計画》

1. 教室整備事業 [教務部教務課、学長室]

下記のとおり更新を行う。

■ 什器・床面改修

・工事期間:2019年8月中旬～9月中旬、2020年2月上旬～3月上旬(予定)

・対象号館・教室

①5号館:11教室(全室固定式什器を採用)

②8号館:2教室(全室固定式什器を採用)

③12号館:2教室(全室固定式什器を採用) 計 15教室

2. 8号館整備事業 [理工学部、学長室]

下記のとおり工事を行う。

■ 給水管の改修

建物内のメイン縦給水管取替え、廊下天井内枝給水管取替え

3. 寝屋川キャンパス東側土地取得地整備事業 [学長室]

学部・学科の新設・再編やグラウンド建設等を含めた寝屋川キャンパス全体の整備計画を検討・策定する。

【具体的指標・効果(成果検証)】

1. 教室整備事業 [教務部教務課、学長室]

新しく設置する椅子は、従来の「跳ね上げ式」から「スイングアップ式」へと変更する。これにより席数の増加を実現するとともに、スムーズな席の移動や長時間座っても疲れにくい特性により講義に集中できる教育環境設備の向上を図りたい。

なお、551、552教室については、学会やオープンキャンパスなど学外者が利用する機会が多いため、什器のグレードを他の教室より上げることで講演会等での使用に耐えうる教室として整備したい。

2. 8号館整備事業 [理工学部、学長室]

給水管の改修(省資源化)を行うことにより、実験・飲用のための水を浄化するための浄水カートリッジやフィルターの消耗品使用量やコストが削減できるとともに、機器・装置の減圧弁、給水回路劣化部品等の劣化を防ぐことが期待できる。

3. 寝屋川キャンパス東側土地取得地整備事業 [学長室]

寝屋川キャンパス整備計画の検討および計画策定。

整備期間:2017～2021年度